

# 八雲町CS連協だより

第3号  
発行日:令和3年2月25日  
発行元:八雲町コミュニティ・  
スクール推進グループ

八雲町教育委員会では、平成30年度に町内すべての小学校、中学校において「小中一貫型コミュニティ・スクール」を導入しました。  
私たち八雲町コミュニティ・スクール連絡協議会では、町内の各家庭、地域の皆さんへ、八雲町におけるコミュニティ・スクールの取組をご紹介します。「八雲町CS連協だより」を作成しています。



▲八雲町CSについて  
(八雲町HP)



そもそも……

## コミュニティ・スクール(通称:CS)って？



コミュニティ・スクールとは、「**学校運営協議会**制度を導入した学校」のことを言います。  
この学校運営協議会は**保護者や地域住民**などから構成されていますが、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べるといった取組が行われています。  
いわば、コミュニティ・スクールは、「**地域住民や保護者が学校運営に積極的に参画する仕組み**」であり、**学校や保護者・地域の皆さん**が共に知恵を出し合い、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていくと同時に、**地域コミュニティの活性化**にもつながる取組と言えます。



## 町内4つの中学校区を基盤にして 小中一貫型コミュニティ・スクール が導入されています！



<b>八雲中学校区</b>	<b>野田生中学校区</b>
八雲中学校 八雲小学校・山崎小学校・浜松小学校	野田生中学校 野田生小学校・山越小学校・東野小学校
<b>落部中学校区</b>	<b>熊石中学校区</b>
落部中学校 落部小学校	熊石中学校 熊石小学校

各中学校区においては、学校、保護者、地域が一体となって「**目指す15歳(中学3年生)の子どもたちの姿**」を共有し、各地域ならではの学習素材や地域人材を取り入れた取組を実施しているほか、小中学校で統一した学習・生活のきまりを定めるなど、様々な活動が行われています。

うちの地域の子どもたちにはこんな15歳になってほしいな

学校での様子はこうですよ

家だとあんな様子でちょっと心配してて…

目指す子どもたちの姿のために 私たちにできることは？

# 地域と学校の連携推進協議会レポート

子どもたちの成長を支えていくために、「コミュニティ・スクール」の仕組みを活用し、地域と学校とが相互に連携・協働しながら一体となって活動を充実させる方法について理解を深めることを目的として、北海道教育委員会では全道6ブロックで「地域と学校の連携推進協議会」を開催しています。

渡島管内では、令和2年8月28日(金)に渡島合同庁舎(函館市)で開催されました。



▲渡島・檜山管内各地より48名が参加

八雲町からは八雲小学校の小野俊英校長先生がパネリストとして参加され、八雲町(八雲中学校区)におけるCSの取組について発表されました。当日の様様をレポートします!



## ①行政説明「CSと地域学校協働活動の一体的な推進について」

講師:北海道教育庁学校教育局義務教育課

- ◆地域と学校の連携・協働を効果的に行うためには、**目標やビジョンを共有し、その実現を目指すこと**について関係者が**共通理解を**図ることが大切。
- ◆地域と学校の連携・協働を推進する体制づくりを行うためには、**地域コーディネーターの役割を担う人材を双方の組織等に位置付け**るとよい。

## ②実践発表「地域の实情に応じた取組の実際及びその成果と課題について」

講師:函館市立巴中学校主幹教諭/釧路市地域学校協働本部統括的な地域学校協働活動推進員

- ◆学校としての立場、地域と学校をつなぐコーディネーターの立場から、各市で行われている地域学校協働活動の実際について発表。コロナ禍の中でも取り組まれた活動についての紹介も。
- ◆地域学校協働活動の推進に当たっては、地域住民の参画を推進し、**学校と地域をつなぐコーディネーターの役割が必要不可欠**。学校運営協議会メンバーの**雑談の中から、学校・地域の困りごとが出てきて、目指すべき目標やビジョンに繋がる**ことも。日常的な活動と情報交流が重要。

## ③パネルディスカッション「各学校や地域が抱える課題解決と今後の取組に向けて」

講師:八雲町立八雲小学校長/北海道CSアドバイザー/釧路市地域学校協働本部統括的な地域学校協働活動推進員

- ◆八雲小学校小野校長先生より、**八雲町における小中一貫型コミュニティ・スクール及び八雲中学校区におけるコミュニティ・スクールの取組について事例発表**がありました。
- ◆パネリストの1人でもあった北海道CSアドバイザーは、昨年度八雲中学校区においてCSコンサルタントとして招いた方でもあり、**八雲町の実態を踏まえた上で活発なディスカッションが交わされました。**



▲小野校長(八雲小)

### 【パネルディスカッションより】

- ・子どもたちの成長を9年間通して見守るという意味では、小中一貫型のコミュニティ・スクールはよい。しかし、八雲町は地域(小学校区)ごとに特色が大きく異なることから、難しさもある。
- ・「自分もやっていて楽しい」という充足感が次につながる。地域の主体性を担保することと自己実現がキーワード。



# かくよう 七飯町立大沼岳陽学校 視察レポート

八雲町におけるコミュニティ・スクールの一層の充実と深化を図るため、令和2年11月16日(月)、七飯町の義務教育学校「七飯町立大沼岳陽学校」へ視察に行ってきました。



## 義務教育学校って？

義務教育(小学校1年生～中学校3年生)として行われる普通教育を一貫して行う9年制の学校のこと。大沼岳陽学校は、それまで大沼地区にあった4つの小中学校を統合し、道南初となる義務教育学校として令和2年4月に開校しました。

⇒八雲町も、広域にわたって・小中一貫型のコミュニティ・スクールを展開しているから、参考になる点が多いのでは！

9年生の教室表示



【参加者】 ●八雲町各中学校区 学校長及び学校運営協議会委員 7名  
●八雲町教育委員会 CS推進グループ 2名 計9名



## ①学校の概要説明

大沼岳陽学校 校長先生・教頭先生より

学校の概要について、小中一貫教育、コミュニティ・スクールの観点からご説明をいただきました。

全校の児童生徒数は123名、1学年(1クラス)は10～15名程度で構成されているそうです。東大沼小学校・軍川小学校・大沼小学校・大沼中学校から統合されており、大沼中学校の校舎を活用しています。

## ②校内見学(各教室等)

1年生から9年生までの授業の様子や、校舎内の各教室を見学させていただきました。図書室は地域の有志によって運営されており、掲示物の作成や書籍等の管理もされているそうです。廊下には、子どもたちが地域行事に積極的に参加している様子(新聞記事)なども多く掲示されており、地域と学校の活発な雰囲気はこちらまで伝わってきました。



## 参加者の感想から

- ◆学校が抱えている課題について、学校運営協議会で地域の方と検討し、地域や町に働きかけて解決を目指すという、「課題解決型」のコミュニティ・スクールであり、まさに私たちが目指しているものでした。学校の経営方針にある「地域と共にある学校」に基づき、地域行事への参加、外部人材の活用なども積極的に行っていたことが印象的です。
- ◆学校の雰囲気に活気があり、「新しいことにチャレンジするぞ」といった姿勢に刺激を受けました。学校と地域の担う役割を明確化することが、私の学校区での改善と深化につながると思います。
- ◆「コロナ時代でもできる地域と学校の活動」について、私の学校区でも模索していきたいと思います。
- ◆大沼の各地域から学校運営協議会に所属されている方、それ以外にも、多くの自主的に参加してくれる方の存在が、強力な協力になっていると思います。
- ◆八雲町においても、「総合的な学習の時間」の9年間のカリキュラムを「地域を学ぶ」、「地域から学ぶ」という視点で編成し、学校運営協議会で地域の声も取り入れながら、地域に根差した学びに深化していくことができると良いのではないのでしょうか。
- ◆地域と学校との垣根が低く、学校(地域の子どもたち)を気にかけてくれる住民が多くいること、その方たちが楽しみながら、自主的に動いていることが何よりの強みであると感じました。





# Report



町内で実施された、地域と学校が協働した活動について、その一部をご紹介します。ご協力いただいた地域の皆さん、ありがとうございました！



知らなかった地域の歴史を知ることができたよ！

### 地域学習(山崎小学校)

花浦町内会の皆さんから、昔の久留米小学校での暮らしを教えてくださいました。



作ってもらった大きな雪山でスキー授業もしているよ！

### グラウンド整備(落部小中学校)

地元企業の皆さんが夏と冬にグラウンドの整備をしてくれて、子どもたちの安全な授業活動や遊びで使うことができます。

東野のもち米、わらび野の小豆を使えば、大福やもなかができるんだ！



「オール野田生」のお菓子づくり(野田生中学校) 地元農家の皆さん、くら屋菓子舗さんの協力により、地産材料100%の大福を作りました。



たくさんとれたじゃがいもに大喜び！

### じゃがいも掘り体験(熊石小学校)

熊石ボランティア協議会の皆さんの協力で、じゃがいも掘りを体験することができました。

## 編集後記



コロナ禍にあっても、各地域では「地域と学校が手をとり合って子どもたちを育む活動」が継続されていることがわかりました。「自分たちのことを気にかけてくれている大人が地域にいる」という実感は、子どもたちにとって心強い追い風になることと思います。

## バックナンバー

「八雲町CS連協だより」のバックナンバーは、八雲町ホームページからご覧いただけます。

八雲町 CS連協だより



【発行元】八雲町コミュニティ・スクール推進グループ(八雲町教育委員会内)  
〒049-3112 八雲町末広町154番地 ☎0137-63-3131